

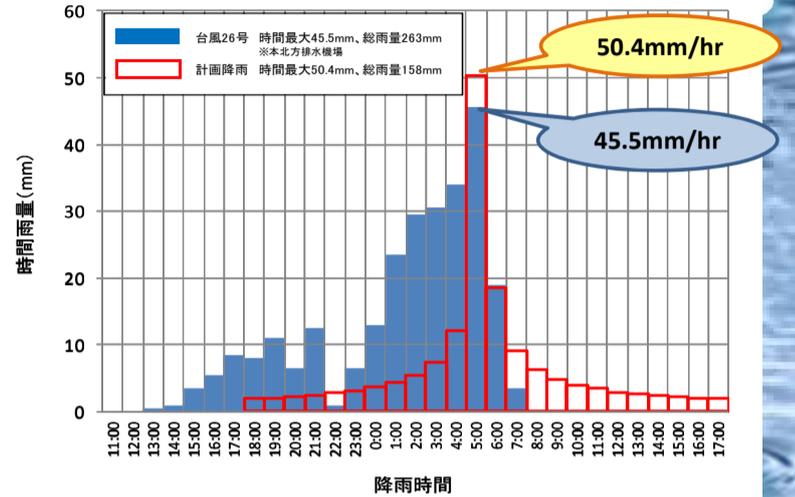
平成25年台風26号と 治水対策の効果

台風26号の概要（平成25年10月15～16日）
 ・ 総降雨量:263mm ・ 最大時間雨量:45.5mm（本北方排水機場）

○ 計画降雨を上回る降雨

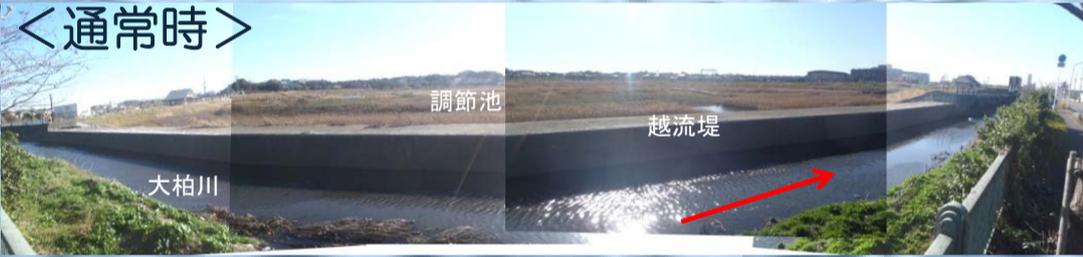
台風26号は、ピーク時45.5mmの前に、時間降雨量30mmを超える大雨が3時間以上継続して降ったことや、総降雨量が263mmに及ぶなど、真間川整備計画で想定する降雨を上回るものでした。

このような記録的な降雨により施設の能力を超えたことや、流された草木などのゴミが排水溝をふさいだことも重なり、市内で多くの被害が発生しました。



○ 機能を発揮した例

大柏川第一調節池



＜台風26号時＞

平成25年10月16日午前8時頃



撮影: ぼっけ生きもの倶楽部

調節池で貯留した水量は、約210,000m³でした。
 これは、小学校の25mプール 約560個分に相当し、北方町で最大98cmの河川水位を低下することができたと考えられます。

○ 過去に本市を襲った大きな台風と比較すると

市内各所で浸水被害が発生したものの、これまで本市を襲った大きな台風と比較すると、市街化の進展と相対的に、浸水被害は大幅に減少しています。

これまでに河川改修や、調節池などの治水施設の整備を進めてきましたが、これらの機能が発揮されただけでなく、**市民の協力のもと実施している雨水の貯留・浸透による流出抑制対策の効果**が現れたものと考えられます。

